

令和元年度第2回諫早市まちづくり総合戦略推進会議
会議記録（要旨）

日時：令和元年8月19日（月）

13：30～15：30

場所：諫早市役所5階 大会議室

【会議次第】

1 開会

2 協議事項

（1）第2期 諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について

【要旨】

(会長)

協議事項に沿って会議を進める。

(1) 第2期 諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料1 第2期 諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について説明。

(会長)

総合戦略（骨子案）の基本目標1「魅力あるしごとをつくる」について、意見・質問等はないか。

(委員)

施策の大項目ア「中小企業支援の推進」の①「中小企業の経営健全化と人材確保」について、K P Iの「中小企業者への新規融資件数」とあるが、こういった内容の融資を対象としているのか。

(事務局)

市と金融機関が協調して行っている制度融資^{*}の件数を指標としている。

^{*}中小企業振興資金制度（運転資金や設備資金への融資制度）

融資限度額：2,000万円、貸付期間：10年以内、貸付率1.4%

(委員)

施策の大項目イ「地域の特性を活かした産業の振興」の①「地場製品の普及促進」について、「地場製品の売上額」というK P Iを設定されているが、民間企業の場合、利益が発生しないと事業が継続できないということを自治体も参考にして、「地場製品の売上額」の場合、「営業利益〇%」というようなサブ目標を設定しても良いのではないか。

(事務局)

ご意見の指標の設定方法については、総合的に判断し検討してまいりたいと思う。

(会長)

民間企業の利益目標を加えることについては、個々の企業側のコストも考慮しなければいけないので、行政側では中々難しいかもしれないが、盛り込めるかどうか検討してもらいたい。

(委員)

施策の大項目イ「地域の特性を活かした産業の振興」の②「農業生産基盤整備

の推進」について、新たなK P Iである「担い手への農地の集積率」について、目標値80%に対し、現行は何%であるか。

(事務局)

担い手への農地の集積率については、現状52.6%である。

(会長)

総合戦略（骨子案）の基本目標2「新しいひとの流れをつくる」について、意見・質問等はないか。

(委員)

施策の大項目カ「本市の魅力発信の強化」の①「諫早市シティプロモーション戦略の推進」について、「市ホームページへのアクセス数」と「本市フェイスブックへの「いいね」数」のK P Iでは、新幹線開業イベント等の実施の効果を測ることは難しいと思う。また、「市のSNSや広報誌を見て市内へ足を運んだ」というのを把握できるような調査を行ったことはあるか。

(事務局)

どのような指標がふさわしいか検討してまいりたい。取組で満足度を調査したということはないと思うが、SNS発信の中でそのような調査ができないか検討していきたい。

(会長)

K P Iは取組の効果を測れるものがふさわしいと思うので検討をお願いしたい。コンテンツをどのように作り発信していくかが重要になってくる。誰がつくるのかで効果が変わってくることもある。個人的には、大項目カ「本市の魅力発信の強化」と大項目キ「多様な視点をもったひとの活用」は同じ施策の中で整理した方が良いと思う。

(委員)

外国人客はSNSを見ながら日本の観光地に来訪している。市において市内の観光地を網羅したページを作ってもらえたらいいと思う。また、市民が市内の魅力をSNS等で発信してもらうため、市民講座のようなものを開催し発信方法を提供するようなことがあってもいいのではないかと思う。

(委員)

長崎市のホームページにおいて、U I Jターン者には、前回会議で事務局から説明があった国の移住支援金のほか、子育て世帯であれば上積みで補助金が支給されるとの掲載があった。諫早市においても、市外の方が住んでみたいと思ってもらえるような、募集方法を検討してみてはどうかと思う。

(会長)

総合戦略（骨子案）の基本目標3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、意見・質問等はないか。

（委員）

施策の大項目ア「結婚を望む男女への支援」について、結婚を望まない人に対し、結婚してもらえるような取組を行ってもいいのではないかと思う。

（委員）

施策の大項目ア「結婚を望む男女への支援」の①「結婚につながる出会いの場の創出と新婚生活への支援」について、お見合いシステムを取り扱う長崎県婚活サポートセンターと市の結婚相談窓口の利用時間帯を教えてください。

（事務局）

市の結婚相談窓口については、地域づくり推進課が所管であり、平日8：30から17：15までとなっている。

長崎県婚活サポートセンターの8月 長崎本所の開所日および開所時間、閉所日については以下のとおり。

- 開所日：月、火、水、金、土（第2・4・5週） 10：30～18：30
- 土曜日（第1・3週）：8月3日、17日 10：30～17：00
- 日曜日（第1・3週）：8月4日、18日 10：30～17：00
- 閉所日：毎週木曜日、日曜日（第2・4週）

（委員）

施策の大項目ウ「子ども・子育て支援の充実」の①「子育て家庭の経済的負担の軽減」について、前回会議でも説明したが、市で実施された子育て家庭に対するアンケート調査において、子育てで不安に思われていることの上位として、「子育て家庭で楽しめる場所を提供してほしい」が76.1%、「保育所や幼稚園に係る負担を軽減してほしい」が63.5%という結果であったことから、市民の意見を汲み取った取組を行ってほしいと思う。10月から保育料の無償化が実施されることから概要について教えてください。

（事務局）

幼児教育・保育の無償化に関する予算については、本年9月議会での上程を目指しているところであり、国の交付金を活用しながら本年10月からの実施に備えたいと考えている。経済的負担の軽減については、3～5歳世帯及び0～2歳世帯の非課税世帯を無償化するとともに、0～2歳世帯の課税世帯に対しては、これまでと同様、市独自の保育料の軽減^{*}に取り組むこととしており、所得階層に応じた保育料のさらなる軽減については、保育料の無償化の状況を見極めながら検討していきたいと思う。

※2人以上同時入所する場合：2人目は4分の1、3人目以降は無料。

（委員）

保育料の近隣市との比較ということについて、大村市は第2子の保育料は無料ということで、保護者の中には大村市の方が諫早市よりも保育料が安いと感じている人がおられるので、諫早市も保育料の第2子無料を検討してはどうか。

(事務局)

本市独自の保育料負担の軽減策については、PRが不足している点については反省しながら、引き続き軽減策に取り組んでまいりたいと思う。

(委員)

施策の大項目ウ「子ども・子育て支援の充実」の①「市こどもの城を中心とした子育てに関する心理面での支援等」について、市内の幼稚園、保育園等への人材派遣を行うと明記されているが、派遣件数が増えてくると職員の負担も増えてくるので、働き方を考慮のうえ職員の適正な配置を検討した方がいいと思う。南島原市では、市内の小中学校にコピー専門の職員を配置しており、教師の負担軽減と子供に目を向ける時間の確保を図っていると聞いている。諫早市の取組として、「アレルギー食の提供」や「こども準夜センターの運営」など子育て世帯にと大きくアピールできるものは、しっかりとPRしてほしいと思う。

(会長)

総合戦略（骨子案）の基本目標4「時代に合ったまちをつくる」について、意見・質問等はないか。

(委員)

施策の大項目カ「地域への誇り・愛着を高める地域づくりの推進」の①「地域に対する誇りや愛着を高めるための地域づくり活動の促進」について、地域運営組織の内容について教えていただきたい。

(事務局)

市においても小長井地域において、子育て世代を対象にワーキンググループを組織して、人口減少を踏まえた地域の助け合い活動ができないか検討を進めている状況である。前回会議で委員から飯盛地域での活動事例の紹介があったところであり、委員から実際の活動内容を報告いただければと思う。

(委員)

飯盛地域では元気なシニア世代の力を活かすため、「地域共生助け合い隊」を組織し、高齢者の近隣商店への買い物や病院までの送迎、子育て世代向けの会議等での子守り支援などの活動を行っている。受付窓口は市施設の一室を借り上げ運営を行っており、市の地域づくり協働事業の支援を受けているが、軌道に乗れば自立して活動していくこととしている。最近では県内市町からも視察に来られ対応している状況である。

(会長)

地域での自助・互助・共助は非常に大事なことであり、地域運営組織の支援は是非進めていただきたいと思う。

(委員)

施策の大項目イ「活力あふれる経済・生活圏の形成」の②「道の駅を拠点とした市街地近隣・中山間地域等の活性化」について、道の駅の進捗状況を教えてください。

(事務局)

平成27年度に立地可能性調査を実施し、平成28年度に5か所の候補地として、運営主体の選定を行っているところであるが、現時点では決定していない状況である。5か所の候補地とは別に飯盛町で直売所を運営するフレッシュ251において、道の駅の立地可能性を調査する事業を農林水産部で実施している。

(委員)

施策の大項目イ「活力あふれる経済・生活圏の形成」の①「中心市街地の活性化（賑わうまちづくり）」について、本文の表現が中心市街地の活性化策について「検討する」となっているが、5年間の計画であるため前向きな表現に修正してはどうか。

(事務局)

表現については前向きな方向で修正させていただきたい。

(会長)

中心市街地の空洞化については、様々な問題があると思うが、空き家や空き店舗をどのように活用していくのか、効果的な施策について検討してもらいたいと思う。中心市街地は地価が高いため、中々借り手が見つからないという課題もあるため、例えば固定資産税の軽減を図るなどの施策を考えてみてはどうかと思う。また、中心市街地に居住を誘導するため、空き家率が高くなっている西諫早地区へ誘導するような施策の検討も進めていただきたいと思う。

(委員)

基本目標4「時代に合ったまちをつくる」には、人口減少を踏まえた施策が大項目エしか見当たらないような気がする。今後、さらに人口減少が続き税収が減少することを踏まえた上で施策を講じていく必要があると思う。

参考1の土地の価格について説明を受け、諫早市と大村市では1割程度しか変わらないとのことであったが、この程度の差であれば大村市には流出していないと思う。どの自治体に居住したほうがお得だと感じるか、何が原因で定住に差ができているのかを踏まえて取り組んでいかないといけないと思う。

(事務局)

今後さらに人口減少等が進んでいく2040年頃には、さらに行政運営が厳し

くなると見込まれており、現在、県と県内市町が連携し取組ができないか検討を進めているところであり、詳細が詰まってきた段階で必要に応じて総合戦略に盛り込んでいきたいと考えている。

土地利用について、大村市では住宅化が進み、本市から人口が流出している状況である。このため、庁内に土地利用の促進に関する研究会を立ち上げ、土地利用の規制緩和等について研究を進めている状況である。

(委員)

私が申し上げたいのは、土地の価格が1割程度であったということに安心するのではなく、土地の価格に差があったとしても諫早に住みたいと思ってもらえるような施策に取り組んでいかないといけないという認識を持っていただきたいということである。

(会長)

人口減少に歯止めをかけ、人口の流出を抑制するかということは、総合戦略の本質部分であるので、その点を踏まえて施策の検討に当たっていただきたいと思う。

(委員)

今後のライバルは雲仙市だと思っている。島原道路ができるし、このままでは定住は雲仙市、勤務先は諫早市となるのではないかとと思っている。雲仙市の八斗木^{はつとぎ}地区では農業が盛んであり、子どもも増えている。また、愛野町の開発も進んでいる。

(会長)

全般的な部分で意見・質問等はないか。

(委員)

1点目として、基本目標2の大項目カ「本市の魅力発信の強化」の①「諫早市シティプロモーション戦略の推進」について、KPIである「本市ホームページへのアクセス数」と「本市フェイスブックへのいいね数」では、相手にどう伝わったのかわからないという意見があったが、私の大学において、国から長崎県への観光客4万人分のデータ提供を受けており、県内観光施設を点数評価するという解析を行っており、諫早市の観光施設も入っている。「本市ホームページへのアクセス数」と「本市フェイスブックへのいいね数」よりも、諫早市への来訪者が本当に満足したのかということ把握して、その差をいかに埋めていくかという取組を行っていくことが本質だと思う。

2点目として、基本目標3の大項目ウ「子ども・子育て支援の充実」の⑦「教育環境の充実」について、学生とともに近隣の小学校とサッカー教室、eスポーツ、学習支援を行っており、学生が喜んで対応してくれたことに非常に驚いた。小中高大の連携により子育て支援を行っていくことになれば、学生は喜び、教員と学生の距離が縮まり、保護者も関わってくるようになる。近くNPO法人を立

ち上げる予定である。

3点目として、参考1の土地の価格について、子育て世代の場合、子ども中心に居住地を選択するので、土地の価格が高くても、学校、交通、病院、安全などの定性的な要因で補完できれば、諫早市に住みたいと思う世帯もいると思う。

宅地造成は一時的には人口が増加するが、50年後を見据えるとゴースト化する可能性があるので、賃貸から自宅購入までのライフスタイルにあったところで市が支援体制を整え実施していくことができれば人口は徐々に増加していくと思う。例えば、小学校から子どもの徒歩で15分圏内に児童がどのくらい居住しているかを調査することで対策の糸口を見出していくという方法もある。

4点目として、交通に関しては国の「Maas（マース）※」という考え方を基に整理していく必要があるのではないかと思う。

※“Mobility as a Service”の略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに一つのアプリで提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念。（国土交通省ホームページより）

（委員）

人間は何故その場所に残るのかということを見ると、「土地」があるからだと思う。できるだけ若い年齢で土地を所有し、その土地に思い入れを持ってもらうようなシステムがあればいいと思う。